



News Release
報道関係各位

2019年11月8日
株式会社ウフル

ウフル、日本相撲協会・麒麟と共同で、大相撲九州場所にて スタジアム・アリーナ向けソリューション「売り子ール」の テスト導入を実施

日本の伝統競技の観戦を、デジタル化でもっと便利に

株式会社ウフル（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：園田 崇 以下、ウフル）と公益財団法人日本相撲協会（本社：東京都墨田区、理事長：八角 信芳以下、日本相撲協会）、麒麟ホールディングス株式会社（本社：東京都中野区、代表取締役社長 磯崎 功典）は、共同で2019年11月10日(日)より福岡国際センターで開催される「大相撲九州場所」にて、スポーツ×IoT事業で開発したスタジアム・アリーナ向けソリューション「売り子ール」をテスト導入することとなりましたので、お知らせします。



■お茶屋制度の利便性を福岡でも

従来、大相撲の場所では、相撲案内所の「お茶子」が、来場者を座席まで案内したり、飲物や食事を座席まで届けてくれる「お茶屋サービス」が存在します（*東京・大阪・名古屋場所のみ）

今回、九州場所での新たな取り組みとして、伝統ある「お茶屋サービス」を、デジタル手法を介して実現するために「売り子ール」を大相撲九州場所にテスト導入することになりました。





■大相撲九州場所 実施概要

<日 程> 2019年11月10日(日)～24日(日)

注文カードイメージ

福岡国際センター

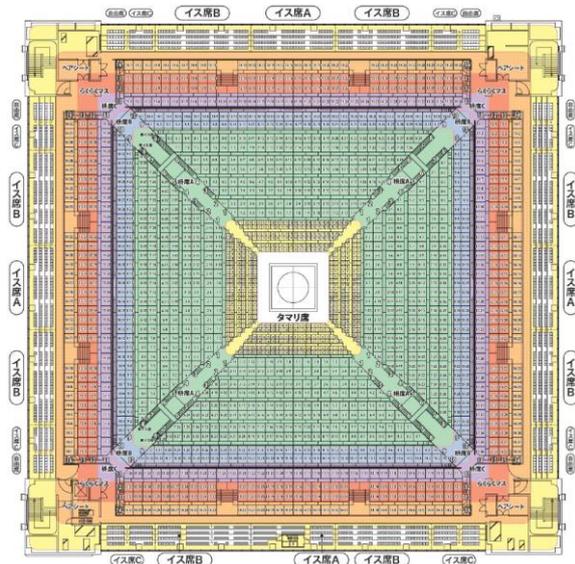
<対象時間> 11:00～17:00 まで

<導入エリア>

マス A 席、マス B 席

<企 画>

導入エリアを対象として、「売り子ール」を利用し、麒麟ビールの「麒麟一番搾り」やお弁当などの食べ物を、席まで係員がデリバリーいたします。



なお、システム障害が発生した際には中止となる可能性があります。

■売り子ールについて (<https://uri-call.uhuru.co.jp/>)

売り子ールはスタジアム・アリーナでのスポーツ観戦中に、スマートフォンから好きな商品を注文し、座席までデリバリーをしてもらうことができるシステムです。

メニューにはビールをはじめとした飲み物だけでなく、食べ物やグッズをラインナップすることが可能です。アプリダウンロード、会員登録、座席番号入力が必要というユーザビリティを最大限考慮した仕様となっており、誰にでも簡単に注文をしてもらえるため、売上およびホスピタリティの向上が狙えます。

当システムは、2018年からテスト展開を開始し、これまでにサッカーや野球の試合においても展開してきました。お客様からは、いままで売店に行かないと購入できなかった飲食物がデリバリーされる便利さと、注文操作の簡便さに大変好評いただいています。

今回の大相撲九州場所では、お客様がお茶屋サービスを楽しめるように、公益財団法人日本相撲協会、麒麟ホールディングス株式会社、株式会社ウフルの共同により、大相撲のお客様に合わせたサービスのカスタマイズを行いました。

売り子ールは、スタジアム・アリーナだけではなくビアガーデンやフードコート、ホテル、特急電車などのサービス提供にも応用可能です。



(参考) 関連プレスリリース

ウフル、スタジアム・アリーナ向けソリューション「売り子ール」をジェフユナイテッド市原・千葉の主催試合で試験導入（2019年6月26日公開）

<https://uhuru.co.jp/news/press-releases/20190626/>

